



与謝の海教育実習、養護学校教諭免許状、鳥取大学 & 神戸大学

渡部, 昭男

(Citation)

学校創立50周年記念誌 よさのうみ:243-249

(Issue Date)

2018-09

(Resource Type)

book part

(Version)

Accepted Manuscript

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/90005312>



与謝の海教育実習、養護学校教諭免許状、鳥取大学&神戸大学

渡部 昭男（わたなべ あきお）
神戸大学教授／鳥取大学名誉教授

研究室の書棚を探すと「京都府立与謝の海養護学校 教育実習録（1976.9.19.～10.3.）」と題した紙ファイル一式が出てきた（「保存資料一覧」参照）。京都大学教育学部4回生の夏休みの終期を利用して、2週間お世話になった際の資料である。配属されたのは「中学部15組」で、ご担当いただいたのはA先生であった。

1. 障害児教育研究会、親の会、夜明け前の子どもたち

京都大学に入学すると時計台のある建物で健康診断がある。入場までに長い列ができ、クラブやサークルの新入生への勧誘がなされる。詳しい事情は定かではないが、気が付けば「障害児教育研究会」に属していた。サークル仲間には同期の中村隆一くん（現・人間発達研究所所長／立命館大学教授）がおり、会の顧問は田中昌人先生であった。

入学当時（1973年）未就学不就学障害児をなくす就学権保障運動が全国に広がっており、京都教育大サークルどろんこ等とも連絡しあって、京都の学生たちで手分けして「実態調査―親の会づくり―自主教室開催」が進んでいた。京大サークルは左京区の担当であった。

ロシナンテ号という愛称の中古車に乗り込んで先輩とともに家庭訪問をし、左京区障害児親の会を立ち上げ、修学院離宮近くの会館で月1回の自主教室開催などを行った。役員の保護者さん方にはお世話になった。学園祭（十一月祭）で「夜明け前の子どもたち」（重症心身障害児施設びわこ学園の療育記録映画 1968年完成）の上映会をしたが、観客は親の会の主要メンバーとサークル員だけという光景だったように思う。

しかし、1973年秋には「養護学校教育義務化予告政令」が出され、1979年度からの義務制実施の準備が進行中という時代背景であった。

2. 教員免許状、与謝の海養護学校、教育実習

京都大学では、中学校・高等学校の教諭免許状が取れた。教育学部のEコース（教育行政学）の選択であったので、法学部・経済学部等の関連科目を含めると社会科免許が取得できた。4回生の時に出身（愛媛県）の大西中学校に出かけて教育実習を受けた。恩師（国語科）のクラスに配属となり、充実した2週間を過ごした。

養護学校の免許状取得のためにどのような科目を受けたかは、記憶にない。しかし、教育実習に行くなら与謝の海養護学校と心に決めていた。矢川徳光（1973）『教育とはなにか』（新日本出版社）という新書本に、与謝の海の学校づくりの取り組みが収録されており、どうせなら本に載るくらいの学校に行ってみたかった。

京都大学では指定校がなく、実習可能なリストに与謝の海養護学校の名があったので、躊躇なく申し込んだ。実習前に大学側から受け取ったのが「昭和51年度学校案内」（保存資料一覧①）、「教育実習生受入れにあたって 教育実習の手引き」（②）であろう。

1. 実習期間中の実習着として体育用のトレパン、またはジーパン、ジャンパー及び運動靴を持参し着用します。

2. 本校が出している出版物、実践報告の紀要など、ひととおり目をとおしておくこと。
僕、学校へ行くんやで 青木嗣夫編著 鳩の森書房
育ち合う 子どもたち 青木・松本・藤井著 ミネルヴァ書房
未来をきりひらく障害児教育 鳩の森書房
“よさのうみ” 実践・研究・運動 等々
3. 実習期間中は、本校教職員と同様の時間帯による勤務とします。
4. 実習期間中、寄宿舎実習を並行して行う場合・・・（以下略）

寄宿舎を利用しない私は、学校のある岩滝からすぐの天橋立、「股のぞき」で有名な笠松山ケーブルカーの麓駅（府中）にあったユースホステルに予約を入れていた。愛用の 50cc バイクの荷台に荷物一式を積んで、京都市北区の下宿から天橋立に向かった。インターネットの「経路探索」などまだない時代、夕食までには着くだろう程度の距離感覚で出かけたが、京都府を縦断する道のりであり相当に遠かった。バイクで天橋立を通過できることを知らなかったのが、宮津側からわざわざ阿蘇海を一周するのにまた時間を要し、日が暮れてからの到着となった。疲れもあって爆睡した。（ユースホステルが急遽 9 月末から館内改修に入り、最後の数日は館長さんが近所の民宿を同料金で手配してくれた。）

3. 中学部 15 組、重複障害学級、指導案・授業

教育実習初日、郷里の小さな中学校とは違って、先生方で溢れた職員室の混み合った様に圧倒された。先生方の机の上には資料が山と積まれており、司会の先生の声は聞こえるが、顔は見えない。朝会の終わりには、学部（ないし学級）集団が立ったまま寄り合っただち合わせを行うが、母校の今治西高校野球部の円陣のようであった。

「教育実習生の受入れについて」（③、④。ほぼ同じ）には、次のように書いてある。

〔基本的態度〕 現今の障害児者のおかれていた状況及び本校の設立趣旨並びに全国的に果たさなければならぬ役割を考え、事情の許す範囲で受入れて、民主的な障害児教育の中心的役割を果たす人物の育成に寄与する。

1. 校内指導組織（略）
2. 指導目標
 - A 障害児教育の歴史と現状と、今後の進むべき方向について
 - B 障害児教育の理論と実際について
 - C 本校の設立経過と障害児教育運動
 - D 今日の社会体制下における障害児者の医療、生活、教育、労働の保障について
3. 指導内容
 - A 講座
 - 1.◎ 本校設立と障害児教育運動
 - 2.◎ 本校児童生徒の実態について
 - 3.○ 障害児の医療と保健教育
 - 4.○ 労働教育と労働権保障のとりくみ
 - B 実習
 - ◎ 学習指導及び生活指導

- 寄宿舍教育
- その他（機訓、言語、発達診断・・・等）
- ◎印 必須課目 ○印 自由選択

4. 実習要項（略）

5. その他

「中学部 15 組」は、重複障害の学級であった。「15 組重複学級の子どもたちのようす」(⑥)には、11 名（女 8 名、男 3 名）の生徒について「氏名、性別・年齢・学年、障害状況、食事、排便、着脱、学習・あそびのようす、ことば・手つなぎ」の項目が記されている。与謝の海養護学校は就学猶予・免除になっていた年長者も小 1 籍で受け入れたので、暦年齢が中学部相当の者はわずか 3 名、残りの 8 名は 17～24 歳であった（小学部籍の者 4 名を含む）。「15 くみ あゆみ」(⑦)は巻末に「夏休みについて」という 1 枚が綴じられており、夏休み前に保護者に配布された冊子であろう。夏休み中の家庭訪問の依頼事項があり、担任団 6 名の「名前、住所、電話」一覧もある。

実習第 1 週目に A 先生の「うた・リズム」や中学部・全校の「体育」「校外学習」「全校集会」などでご指導をいただき、第 2 週目の冒頭に渡部自身が授業をした模様である。左京区障害児親の会（現・NPO 法人障がい者はあとの会）では、保護者さんが役員会などで話し合う合間に自主教室（保育）を任されていたので、多少の「実践」経験はあった。特に、年長者で大柄のトモヨさん（仮名：歩行可能、わずかの話し言葉）には何故か気に入ってもらい、渡部が固定担当のようになっていた。

15 組の生徒の実態として、「示性数 2 可逆」1 名、「示性数 3 可逆」1 名、「一次元形成」4 名、「一次元可逆」5 名との記載 (⑥) があり、発達に関する大学での講義内容や「学習・あそびのようす、ことば・手つなぎ」(⑥)の実態、資料⑦の 1 学期の様子などを参考に、作成した指導案 (⑫) は以下のである。恥ずかしながら再現しておく。

「ことば・かず 指導案」

1. 日 時 51.9.27. (月) 1～2 校時

2. 場 所 (晴) 15 組教室・戸外 (雨) 視聴覚室

3. 教 材 絵本「おおきなかぶ」(特に「うんとこしょ どっこいしょ」)

4. ねらい

○日本語のもつ素朴なリズム（言語・認識レベル）を既得の又は獲得途中にある歩く力、ひっぱる力（身体・手指の運動機能レベル）で鑑賞し、表現する。

○方向・速さ・重さ・媒介物をさまざまに変化させ、ひっぱって歩く力を豊かにする。

5. 展 開

9:40 「おおきなかぶ」絵本を使って読み（語り）きかせ（20 分）

10:00 教室外の芝生上へ移動（5 分）

10:05 「うんとこしょ どっこいしょ」の 2 拍子のリズムを様々に変化させて働きかける。(a→b→c→d→e→f→g の 7 パターン、30 分)

10:35 「うんとこしょ どっこいしょ」のかけ声で一人ひとりブランコをする。(10 分)

10:45 退 場

6. 評 価

- 既に握る力のある子どもたちは、腕の高さ（肩・腰）、ひっぱる方向（左右・前後）、ひっぱる姿勢（座・中腰・立）、ひっぱるリズム（速・遅）の変化により表情・握り・ひっぱる力が豊かになったかどうか。
- さまざまな変化に対し、自ら握る行為を持続するかどうか、左右・両手の違いをみる。
7. 準備 「おおきなかぶ」の本7冊、(雨：スライド、OHP)、タンバリン、カスタネット、縄跳びひも、バトン、タオル、ゴム

当日は屋外で実施できたようで、雨天案には斜線が引かれている。授業がどうなったか、後の講評はどうであったか、まったく覚えていない。A先生はじめ、皆さんには優しくご指導いただいた。

A先生らと重複障害学級の生徒さん達との実践は、1981年、国際障害者年を記念し製作されたドキュメンタリー映画「ぼくらの学校 与謝の海養護学校の実践」の銀幕上でふたび拝見することになる（大きな箱の観音扉を開いて中にいるピエロ役の教師を発見し、働きかけ、関係を結ぶという実践場面）。

4. 「発達保障」の思想と実践、鳥取大学&神戸大学

教育実習の帰rido、京都府立ろう学校舞鶴分校にT先生を訪ねた。学生時代から全障研京都支部の事務局に出入りしていた私は、研究会に参加している京都府下の先生方を幾人か存じ上げていた。T先生もそのお一人であり、京都らしい共同教育の創造と展開で注目されていた同校の場所と建物を一目確認しておきたかったのである。

学部卒業後に大学院に進み（1977年）、5年間過ごした後に、幸いにして鳥取大学に職を得ることができた（1982年）。教育行政学での求人はなく、京都大学の大学院生には珍しく養護学校の教諭免許状（1種免許状には単位が少し足りず2種）を持っていたこと、教育実習先がかの与謝の海養護学校であったこと等が選考委員会の興味を惹き、「障害児教育」担当の講師で採用していただいた。

与謝の海養護学校が私の研究職としての道を拓いてくれたと言っても過言ではない。しかも赴任先は、「人格発達の権利の保障（発達保障）」「この子らを世の光に」の思想と実践で有名な故・糸賀一雄氏の生まれ故郷であった。その後の渡部の研究活動に関しては、鳥取大学附属特別支援学校著、三木裕和監修（2017）『七転び八起き「自分づくり」：知的障害青年期教育と高等部専攻科の挑戦』（今井出版）に収録した拙稿「第3部 理論編／第1章 専攻科設置の源流と経緯」をご覧いただければ思う。私の研究の原点の一つは、与謝の海養護学校にあらう。

「現今の障害児者のおかれている状況及び本校の設立趣旨並びに全国的に果たさなければならぬ役割を考え、事情の許す範囲で受入れて、民主的な障害児教育の中心的役割を果たす人物の育成に寄与する。」との「基本的態度」のもと、権利保障運動の最先端に立った貴重な学びの機会をいただけたことに対して、与謝の海養護学校と関係の先生方に心よりの御礼と感謝を申し上げたい。

5. 教育課程、集団編成、育ち合い

2011年に神戸大学に異動した。担当は「教育行政学」であり、「障害児教育」からは離

れることになったが、2016年度から神戸大学附属特別支援学校の校長を務めている。同校における実践研究の源流は、これまた「発達保障」と言ってよい。

教育実習ファイルに残された資料は、「発達保障」の教育課程、集団編成、育ち合い等を検討する上で、貴重な歴史的財産とも言える。

1976年度における与謝の海養護学校の教育課程は下表のようであった (①)。

3 教育課程							
A 昭和51年度授業時数							
教 科	小 学 部		中 学 部		高 等 部		
	A	B	A	B	A	B	
ことば・国語	2.5	2	4	2	4	2	
かず・算数	2.5		4	2	4	2	
社会科	1.5		2		2		
理科	1.5		2		2		
音楽	2		2	2	2	2	
うた・リズム		2					
図工	2		2	2	2	2	
えがく・つくる	2	2		2			
からだ・体育	4	2	2	5	3	5	
しごと・労働	2		5		4	4	
あそび		2		1			
基礎	4	7	1	1	1	1	
学部	1	1	1	2	1	1	
全校	2	2	2	2	2	2	
生活労働	2	2	2	2	2	2	
クラブ体育	2	2	2	4	2	2	
校外学習		2		4		4	
給食指導		5					
	31	31	31	31	31	31	
A「普通学級」 B「重度重複学級」							
※ 機能訓練 機能訓練の必要な肢体障害をもった子どもについて、学部ごとにグループ編成し、週2～3時間の指導をし、学級、学部とも統一した指導ができるようにと取り組んでいる。							
※ 言語指導 話しことばに障害（構音障害、吃音、難聴、CP）があり、特に「ことばの教室」で指導をすることが必要な子どもについて、週4～7時間、学級、学部、寄宿舎等の指導と統一しながら指導している。							
※ 療育指導 情緒面に障害をもった子ども（自閉的傾向とちえおくれを伴っている場合を含む）に1週2時間～6時間の個人及び集団遊戯療法を試み、学習の可能な子どもには独自のカリキュラムを組み指導している。							
備考 a 年間授業日数を35週とした場合の週当たり平均授業時数である。							
b 授業時数の1単位時間は、小・中・高を通じて40分としている。							

「中学部15組」の教育課程は、「うた・リズム」「えがく・つくる」「ろうどう（労働）」「からだ」「ことば・かず」「校外学習」の6領域をベースに、HR、中学部集会、共同学習によって編成されていた (⑦、⑩)。そして、集団編成には以下の6種がある。

(1) 基礎集団（15組だけでやるもの）

おはよう、着がえ、給食、さようならなどの生活指導的な面と、学習グループをつくっていないので、うた・リズム、えがく・つくる、からだ、労働、ことば・かず、校外学習などの学習的な内容の面の二面をもっています。

(2) 中学部集団（中学部全体でやるもの）

15組だけでなく、11～14組もいっしょに中学部全体でやる学習で、労働の「ウーづくり」と中学部集会があります。また行事的なもの（七夕音楽祭）もいっしょにとりくみます。

(3) 体育クラブ

中学部と高等部の子どもたちがいっしょになり、自分の要求によって、はいりたいクラブをきめ、いろいろなクラブに所属して週一回行っています。

卓球、バスケット、バレーボール、ソフトボール、陸上、サッカー、体操、機訓などのクラブがあり、その中で、子どもたちの自主的なクラブ運営をめざし、かかわりを大切にし、体をおもいきり動かすことなどを中心にした学習を行っています。

(4) 労働クラブ

全校児童・生徒をたてわりにして子どもたちの要求にもとづいてつくられたクラブで粘土、園芸、音楽、美術、手芸、調理、理科、木工があり、15組の子どもたちは粘土、園芸、音楽、美術、手芸、調理にはいっています。

(5) 全校集団

全校集会や 4 チームにわかれておこなう稲づくりなど全校で育ちあう学習をしています。

子どもたちは実際にどのように育ちあっているのでしょうか。学務総会に提出された 1 学期の実践の総括文書 (17) において、①集団としての育ち合い、②個の育ち、③今までのとりくみの中でみられる変化と今後の課題、がまとめられている。

「集団としての育ち合い」では、「一学期は特に新しい仲間、新しい指導者ということで、仲間をどう意識させていくのかを大切に考え、ねらいとしては、／ {仲間を知り、みんなと友だちになろう／だれとでも手つなぎができるようになろう} ／そして、ゆったりとした流れの中で、自分から仲間に、外界にかかわろうとする主体的な動きのできる場の設定を生活指導面、学習の中で工夫してきました。子どもの力をどうみるのか、それをどう発展させようとしているのか、集団とのかかわりで、」とのリード文に続いて、『『おはよう』のとりくみから「移動」「着脱」「かかわりのようす」別に子どもの育ち合う様子が描かれている。

「個の育ち」には、「特に変化がみられた子と中学部からきた子どもについて」として、7 名の変化の姿が書かれている。

次の「今までのとりくみの中でみられる変化と今後の課題」は、暦年齢の異なる生徒たちで構成される「15 組」における「変化と今後の課題」が記されており、歴史的にも貴重である。

1. ひとりひとりの子どもがそれなりのかたちで集団に位置づき、次第に 15 組という集団を意識しはじめている。
2. 15 組独自の授業の中では、授業のなかみが子どもの発達課題に合っていて、子どもが主体的に動く場面も多くなり、それぞれに生き生きとした反応を示す部分がかなりみられるようになっている。

特に、同世代の子どもと、発達課題に合った集団を保障してきた中で感じられる点として○体力的にみてにているという点から、子どもどうしのかかわりかたのなかみに変化がみられる。例えば、／相手の意識の仕方 (A 生－B 生) ／動きの大きさ・はやさ (C 生) ／まわりのようすをみるなかで学ぶという点

○集団を意識させるようなとりくみ・指導の中で、かなりそれがもてるように変わってきているが、集団を意識化させていくための要素をつくりやすい条件があるのではないだ

ろうか。

今後さらに

- 道具や体に合う遊具等の媒介物をもちこむなかで、子どもの体をどんどん動かし、もっている力を出しきらせていくこと。
- ことばの面でのおちこみが大きい子がかかなりいるので、はなしことば獲得前の豊かな感情を太らせていくために、指導者とのかかわりを深めながら、それを広げていくこと。
- 子どもの要求を引き出していくこと。
- 基礎集団がひとつであることにより、一日のくぎりをつかませにくい部分もみられるのでその点での手だての工夫。
- 中学部集団のあり方について、特に B 学級の子にとって参加している意味は何かを明らかにしていく必要。

田中昌人監修（2007）『近江学園の実践記録 要求で育ちあう子ら：発達保障の芽生え』（大月書店）には、「子どもたちの要求を引き出す」「生活時間の組織化」「複数の集団を保障する」「子どもの要求は仲間の中でこそ育つ」など、近江学園における 1960 年代の実践研究の中で編み出されていった主要テーマが記されている。その提起が 1970 年代には与謝の海養護学校で継承され、深められている。

そして、神戸大学附属特別支援学校は 21 世紀のいまに、その思想と実践を引き継ごうとしている。同校では、学年別集団編成は卒業を前にした高等部 3 年生でのみ採り、他は学部内での学年混合編成の基礎集団としている。その上で、学習活動、生産活動、自治活動などの目的に応じて多様な集団の保障を頑固に志向している。与謝の海養護学校と同様に 1969 年に開校しており、間もなく 50 周年を迎える。

*宜しければ、以下のサイトをご参照下さい。

・神戸大学附属特別支援学校 HP

<http://www.edu.kobe-u.ac.jp/hudev-yougo/web-content/Welcome.html>

・研究のあゆみ

<http://www.edu.kobe-u.ac.jp/hudev-yougo/web-content/kennkyuunoayumi2016.html>

・『研究集録』第 1～43 号 目次等

<http://www.lib.kobe-u.ac.jp/kernel/seika/NCID=%20AA12670855.html>

保存資料一覧

【全校・中学部・15組に係る資料】

- ① 京都府立与謝の海養護学校「昭和51年度 学校案内」(昭和51.)
- ② 京都府立与謝の海養護学校「教育実習生受入れにあたって 教育実習実施の手引き」昭和49.4. [B5サイズ1枚、青焼きコピー]
- ③ 京都府立与謝の海養護学校「教育実習生の受入れについて」[B4サイズ1枚、ガリ版印刷]
- ④ 京都府立与謝の海養護学校「教育実習生の受入れについて」[B4サイズ1枚、ガリ版印刷]
- ⑤ 京都府立与謝の海養護学校中学部「中学部 時間割」(昭和51.9.) [B4サイズ1枚、ガリ版印刷]
- ⑥ 京都府立与謝の海養護学校中学部「15組重複学級の子どもたちのようす」[B4サイズ1枚、ガリ版印刷]
- ⑦ 京都府立与謝の海養護学校中学部「15くみ あゆみ」(昭和51.7.推定) [B5サイズ17枚+B4サイズ2枚折り込み冊子、ガリ版印刷]

【指導案】

- ⑧ 体育祭実行委員会「全校集会 指導案」(昭和51.9.21.火1～2校時) [B5サイズ1枚、ガリ版印刷]
- ⑨ X、Y「体育 指導略案」(昭和51.9.21.火3～4校時) [B4サイズ1枚、ガリ版印刷]、「障害の係り」[B5サイズ1枚、青焼きコピー]
- ⑩ A(核指導)「うた・リズム 指導案」(昭和51.9.21.火5～6校時) [B5サイズ1枚、青焼きコピー]
- ⑪ 「校外学習 指導略案」(昭和51.9.24.金5～6校時) [B5サイズ1枚、青焼きコピー]
- ⑫ 渡部昭男(実習生)「ことば・かず 指導案」(昭和51.9.27.月1～2校時) [B4サイズ1枚、原版+青焼きコピー]
- ⑬ 「中・高合同体育練習 指導案」(1976.9.28.火3～4校時) [B5サイズ1枚、ガリ版印刷]、「中学部障害走入場について」[B5サイズ1枚、青焼きコピー]、「中学部リレーについて(案)」[B4サイズ1枚、青焼きコピー]、「S51 中学部障害走実施要項 メンバー」[B5サイズ1枚、ガリ版印刷]

【定例会 夏季研究会参加報告集会】(昭和51.9.22.)

- ⑭ 「9.22.定例会 夏季研究会参加報告集会」[B5サイズ7枚+B4サイズ1枚折り込み冊子、ガリ版印刷]、「第7回子どもの文化夏期セミナー報告」(昭和51.7.29.～30.ホテル・ニュー京都) [B5サイズ1枚、ガリ版印刷]、「第10回全障研大会報告」[B5サイズ2枚、ガリ版印刷]、「第3回京都府情緒障害児教育研究集会」(昭和51.8.18.) [B5サイズ1枚、ガリ版印刷]、「第63回学校体育研究同志会」(昭和51.8.8.～11.) [B5サイズ1枚、ガリ版印刷]、「日本作文の会 系統案づくりのための指導題目一覧(第一次試案)」[B4サイズ1枚、ガリ版印刷]、「第25回作文教育研究大会」(1976.7.31.～8.2.) [B5サイズ1枚、ガリ版印刷]、「第3回子どもの遊びと手の労働研」(8.3.～5.) [B5サイズ1枚、ガリ版印刷]、「第25回部落問題夏期講座(1976.7.29.～30.)、与謝地方同和教育研究集会(8.21.)、府高同和夏期研究会(8.26.～27.)」[B5サイズ6枚冊子、ガリ版印刷]、「S51年度 特殊教育課程地区別(東海・北陸・近畿)研究集会」(8.24.～26.) [B5サイズ1枚、ガリ版印刷]、「日教組三プロ(東海・北陸・近畿)学習会」(8.18.～19.) [B5サイズ1枚、ガリ版印刷]、「第17回全国寄宿舎教職員大会」(7.27.～29.) [B4サイズ3枚、ガリ版印刷]

【第9回職員会議】(昭和51.9.29.)

- ⑮ 「第9回職員会議題」(1976.9.29.) [B5サイズ1枚、ガリ版印刷]、「昭和51年度中学3年生修学旅行計画」(10.28.～30.名古屋市・犬山市) [B4サイズ1枚、ガリ版印刷]、「昭和51年度小学6年生修学旅行計画」(10.13.～15.奈良市) [B4サイズ1枚、ガリ版印刷]、「昭和51年度同和教育方針/同和教育委員会」[B4サイズ1枚、ガリ版印刷]、「昭和51年度訪問教育部集団学習計画」(10.5.～6.) [B4サイズ1枚、ガリ版印刷]、「1976年度創立8周年記念行事任務分担一覧」[B5サイズ1枚、ガリ版印刷]、「10月行事予定表」[B4サイズ1枚、ガリ版印刷]、「1976年度地労協体育大会への参加について」(10.11.) [B5サイズ1枚、ガリ版印刷]、「昭和51年度 同僚会夏期研修旅行会計報告書」[B5サイズ1枚、ガリ版印刷]

【学務総会】(昭和51.9.30.)

- ⑯ 小学部「学務総会レジュメ」[B5サイズ9枚+B4サイズ1枚折り込み冊子、ガリ版印刷]
- ⑰ 中学部(15組)「学務総会レジュメ」(1976.9.30.) [B5サイズ4枚冊子、ガリ版印刷]、同「学務総会レジュメ」下書き [B5サイズ5枚冊子、青焼きコピー]
- ⑱ 高等部「学務総会」(昭和51.9.30.) [B5サイズ7枚+B4サイズ1枚折り込み冊子、ガリ版印刷]、「参考資料 ファロー四徴症について」[B5サイズ1枚+B4サイズ1枚折り込み冊子、ガリ版印刷]
- ⑲ 事務部「52年度教育予算要求討議資料」(昭和51.10.1.) [B5サイズ1枚、ガリ版印刷]